

山里センチメンツ

調査団体名	山里センチメンツ	団体代表者名	安藤 順（中心スタッフ5名） （プロジェクト毎にスタッフが入れ替わります）
設立年	2013年（1月）	対応してくれた人の名前	安藤 順
団体URL	http://yamazatosentiments.booo-log.com/	調査員	洲崎燈子・今村豊
活動拠点	444-2802 豊田市田津原町惣作9番地の1	レポート作成者	今村豊
取材日	2015年12月15日		

活動内容

地域住民が余分な精神的ストレスを受けることなく生活でき、健やかに生きられるように、新しい概念である「モラルハラスメント」を地域に紹介している。設立時の平成25年から現在に至るまで「モラルハラスメント」についての学習会・講演会等を、豊田市の山間部で専門家を招いて5回開催した。グループ名で使っている「センチメンツ」という言葉は、人々が持つ気分、気持ち、心情、たたずまい、雰囲気、共感のことで、里山に住む人々の心や空間を健やかなものにしていこう、気持ちを言葉で伝えて心を置き去りにしない、という「山里の住民が持つべき健やかな心」を表している。

※モラルハラスメントとは

身体を傷つけずに、言葉や態度で心を傷つける嫌がらせやいじめのこと。目に見えず証拠に残りにくい。

キャッチフレーズ

「気持ちを言葉で伝えて 田舎を居心地の良い所にしていこう」

会のモットー（何を大切にしているか）

- ①モラルハラスメントをなくし田舎を住みやすくすること
- ②住みやすい田舎をつくる人を育成すること、
- ③山村における「子どもの人権」について認識を高めること
- ④子どもの自主性・多様性を育み尊重すること

設立から現在に至るまで変化したこと

設立当初（2013年1月）講演会開催費用等、資金面で悩んでいたところ、豊田市旭支所長さんが「旭地区わくわく事業活動助成金制度」を教えてくれ、今後の活動資金の調達について目途が立った。その後、「モラルハラスメント」についての学習会・講演会を重ねることで、豊田市旭地区の「モラルハラスメント」に対する認識度を高めることができた。こうした活動を通じて「山里センチメンツ」が理想としている、地域を超えた様々な方々がテーマを共有しながら連携して活動を展開していく「テーマ・コミュニティづくり」に結びついた。平成27年以降は大人が子どもを抑圧するのを防ぐこと、子どもが自殺しなくて済むようにすることに力のほとんどを注ぐ方針としている。

連携している団体・専門家・自治体など

愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院、三河中山間地域で安心して暮らし続けるための健康ネットワーク研究会、おいでん・さんそんセンター、NPO法人 都市と農山村交流スローライフセンター、とよたプレーパークの会、野外保育とよた森のたまご、アルプスこども会（長野県駒ヶ根市）

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動（例：小仕事づくり、山村・森林資源活用など）

山村に住んでいる大人や子供、山村に来たばかりの方、これから山村に来られる方々が、自分が暮らす地域社会を、人間関係においてストレスがなく、健やかな気持ちで末永く暮らしていける居心地の良い山村で良かったと実感できるように、「モラルハラスメント」の学習会・講演会等を実施している。これらの取り組みによって、山村における「人間関係の改善」という最も基本的な住民のメンタルな側面から、山村の再生と担い手づくりに貢献している。

現在直面している課題

子どものメンタル的な被害者を失くすため、教育関係者と連携した取り組みや、「教育の改革」等をテーマに活動を展開したいが、教育関係者の組織の壁は厚くなかなか入り込めないのが現実である。今後、効果的な取り組み方法について勉強を進めていきたい。また、こうした「モラルハラスメント」の概念を、さらにより多くの山村に定着させていくためにはどんな方法が良いか、そのひとつの方法として、自著による「取り組み成果の冊子化及び図書化」を検討している。

今後やってみたいこと

歪んだ子ども観を持つ大人から子どもへの心的虐待を予防するためのミニシンポジウム「あたらしい子ども観を学ぶ」を平成28年末に開催します。またその半年前に「みんなの学校」という映画の自主上映会を開催します。また、次の施設を訪ねます。フリースクール自分を生きる学校Mii(多治見市)、みんなのたまり場ちゃどかん(多治見市)、森のようちえん 自然育見 森のわらべ多治見園(多治見市)、森のようちえん てんとうむし(みよし市)、野外保育とよた 森のたまご(豊田市)、とよたプレーパーク(豊田市)、とよた子どもの権利相談室(豊田市)、子どもオンブズパーソン(兵庫県)

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

先にあげたグループと連携し合う他、自分たちのメンバー以外に毎回取り組むテーマごとに新メンバーの方々に加わってもらっている。従って、情報や人脈は学習会・講演会・シンポジウムを開催する度に、入手・拡大している。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

山村に「モラルハラスメント」の概念を定着させることに取り組む、そのきっかけとはどんなものだったのですか。

<答え>

- ①身近な知人に「いじめ」に会った方がいて、どうにかしなければいけないと感じたこと
- ②山村部においても「モラルハラスメント」の実態があることを強く実感し、いたたまれない気持ちになったこと
- ③そうした実態がありながらも、山村に「モラルハラスメント」の概念がなく、常態化していても気づきがないこと
- ④「モラルハラスメント」をなくすには、その芽とも言える子ども時代の「いじめ」を失くす必要があること
- ⑤そのためには「里山の自然環境」を活用した活動を通して、子どもの自主性・多様性を高めていくことが理想的である事例を知り、当地区でも実践したいと感じたこと
- ⑥本当に住みやすい山村をつくるためには、山村に関わるすべての人が「モラルハラスメント」の問題を絶対に避けては通れないこと

その他、伝えたいこと

山村に住む多くの方が人間関係や地域社会の中で「いじめられ感・疎外感」を感じていながら、なかなかその感情を言い出せなくて悩まれている。それは、健全な心の状態とは言えず、このことに地域社会は気づいて、対応しなければならない。こうした「モラルハラスメント」の概念を山村に普及し、また、その実態を気づかせて、山村に住む誰もが自分の気持ちを言葉で伝えられるような地域社会に変え、皆で田舎を居心地の良い所にしていきたいと思います。

写真



取材風景



テーマ・コミュニティ・ミーティング【いじめとハラスメントを語り考えるミーティング 2015 足助】
(平成27年10月30日に足助病院南棟講義室で開催)

今後、豊田市総合教育会議、豊田市教育委員会、定例会議、豊田市議会、豊田市地域会議(旭、足助など旧町村)を定期的に傍聴していく。